



惣領木神社の宮守の福永さん



神殿を特別に開けてもらい、ご神体を拝ませてもらいました



惣領交差点の一角にある惣領木神神社。秋には子ども奉納相撲が開催されます

わがまち散歩

ちよつとそんぱで

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



平安から鎌倉時代、豪族や武家の統治があったことを示す「惣領」という独特の地名。学校や銀行、病院、スーパー、飲食店が集まり、町の中心部として栄えてきた地域でもあります。梅雨の晴れ間を見つけてのんびりと散歩を楽しみました。

豪族や武家の権限を指す 惣領という地名

移り気な文月の空。天気とにらめっこの洗濯仕事が続く毎日ですが、一方で、雨に打たれた庭に潤う植物の命に心が癒やされます。そんな梅雨の合間の晴れた日、惣領地区をぶらりと散歩しました。さて、地名にある「惣領」とは、はるか昔、所領を統轄・管理した

豪族や武家の官名で、またそれらが治めた土地を指します。一説によるとこの辺りは、鎌倉時代に源頼朝の庶子で地頭職に就いた源業政が治めたといわれています。

『大辻遺跡』（馬水災害公営住宅そば）のような古代の行政機関と推定される大規模な遺跡も付近に存在することから、各時代において惣領地域は重要な場所であり、豪族や武家の権力者による統治がなされていたと考えられます」と教えてくれたのは、町生涯学習課

の堤英介さんです。

県道熊本高森線の惣領交差点一角に佇む惣領木神神社。古くから氏神様として崇められている神社で、創建の時期は不明ですが、神に祭られている御神体の鏡は、古墳時代の貴重なものと伝わります。

7年前の熊本地震で拝殿は全壊しましたが、翌年の9月には再建されました。境内は美しく清掃されており、宮守の福永憲治さんは毎朝早くから拝殿の窓を開け、明かりを灯します。「朝早くから参拝される方もいらして、気持ちよく参拝いただけるよう心掛けています」と福永さん。

来る9月12日の秋の例大祭では子ども奉納相撲が行われる予定で、にぎやかな声が境内に響き渡るのが今から楽しみです。



惣領木神神社の鳥居に一礼をして参道を進みます